

国語科学習指導案

学 級 3 年 2 組（計 37 名）

場 所 体 育 館

授業者 教 諭 今 村 佑 美

1 単元名 作品の魅力を書評で伝え合おう

教材名 「握手」

2 本単元における言語活動

展開の仕方に着目しながら物語を読み、考えたことを書評として伝え合う活動

（関連：言語活動例 3年 イ）

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本教材は、「わたし」と「ルロイ修道士」が手を握り合うというという身体を通した「つながり」とともに絆が描かれた作品である。「握手」という題名にもあるように、作品中には、握手の場面が3回描かれている。物語は、上野の西洋料理店での「わたし」とルロイ修道士の会話を中心として展開しているが、握手や指言葉をきっかけとして、現在の場面において過去の回想が語られることで天使園での出来事の印象が強まるだけでなく、ルロイ修道士の人物像や「わたし」の心情の変化などが際立つ作品となっている。

今回は、作者が回想の場面を取り入れながら、どのように物語を展開させているのかを分析しながら読み取っていく。その際、登場人物のしぐさに着目させ、必要に応じて「三角ロジック」を用いて整理していく。さらに、生徒自身の記述を相互評価しながら、書評の確かさを実感させる。このような学習を通して、生徒たちに、作品の魅力を探究させていきたい。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、文学的文章を学習する際、人物同士の関係を捉えるために人物相関図を使ったり、人物像をまとめるために三角ロジックを用いて整理したりする活動を行ってきている。そのため、自分の考えをまとめることに対する抵抗感はなくなりつつある。しかし、調査物の結果から分かるように、文章の内容を正しく捉えたり登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てたりすることに苦手意識をもつ生徒が少なくない。

そこでまず、初発の感想をまとめ、今回書く書評のまとめ方を確認する。次に、観点ごとに分析を行っていく。具体的には、現在と回想の場面を表にまとめ、時間の順序を整理することで、展開の仕方の工夫や効果に気付かせたい。特に、握手や指言葉などの行動、二人の会話やエピソードに着目し、そこに含まれる心情や関係の変化を捉えさせる。最終的に、書評として記述したものを他者と比較させることで、文章の内容を捉えながら作品の魅力を伝えたり、他の視点での読み取り方に気付いたりすることができるよう授業を展開していきたい。

(3) 言語活動の特性

本単元の言語活動は、「展開の仕方に着目しながら物語を読み、考えたことを書評として伝え合う活動」である。書評とは、「ある本の内容を批評・評価した文章」である。これは、学習指導要領の「批判的に読む」こととつながる。「批判的に読む」とは、「文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むこと」である。

書物を選択する際、タイトルや表紙等に興味をもつことが多い。この単元では、本教材の特徴の一つである「展開の仕方」に着目しながら読み、考えたことを書評として伝え合うという言語活動を設定する。その際、これまでに読んだことのある人に新たな視点による再読を啓発させるために、自分の考えをまとめることを意識させたい。登場人物と自分自身の既存の知識・体験とを比較したり、他者と比較したりすることで作品を読み味わい、読みが深まるように工夫していく。

(4) 言語活動の工夫

指導に当たっては、導入において、共有した観点を基に、初読の感想を書かせ、今後の学習では、どのような視点で作品を読み取っていくか確認する。展開では、まず、ルロイ修道士について三角ロジックを用いて人物像をまとめさせる。次に、回想の場面の効果に気付かせるために、現在の場面と回想の場面を表にまとめて比較する。さらに、本教材の展開のしかたの工夫とその効果について具体的に考え、三角ロジックを用いて整理させる。終末では、書評を相互評価させる。そこで、作品を深く読み味わったり、自分自身の記述を振り返ったりすることができるようにする。

このような活動を通して、展開の仕方に着目しながら読み取っていくことで、これまでとは違った読み方を身に付けさせ、文学的文章を読む楽しさに気付かせたい。

4 単元の目標

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能（言葉の特徴や使い方 イ）】
- (2) 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等（読むこと ア）】
- (3) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【思考力、判断力、表現力等（読むこと イ）】
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

5 単元における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1) イ)	① 「読むこと」において文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えている。 (C ア) ② 「読むこと」において文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 (C イ)	① 積極的に物語の回想の場面の効果や展開の仕方などについて考え、相手や目的を意識しながら、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。

6 単元の指導計画（全5時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
導入	○ 全文を通読し，作品の概要をつかみ，ICEループリックを作成する。	1 展開の仕方や言動に着目しながら本文を通読する。 2 「走れメロス」を想起し，「握手」との展開の仕方を比べる。 3 初発の感想を書き，交流する。 4 書評を書くためにはどのような学習が必要かを協議し，ICEループリックを作成する。	1	- 思考ツールとして用いてきた「三角ロジック」の確認をする。 - 今回の言語活動は，「書評」を書き，交流し，読み深めることであることを伝える。 ※ 相手意識 「握手」を読んだことのある人 ※ 目的意識 - 再読を啓発させるため 【思考・判断・表現の評価の観点】 ◎ 全体像 ◎ 展開の仕方の工夫 ◎ 展開の仕方の効果と批判的な読み ◎ 既有的知識・体験との関連 ・ 観点を設定し，場面の設定や展開の仕方を確認しやすくする。 ・ 印象に残ったことを初発の感想にまとめさせることで，内容を振り返ることができるようにする。 ・ よりよい書評を書くためには，必要な観点を全体で共有し，今後の学習の見通しをもてるようにする。	【知識・技能】 観察 - 人物像を表す言葉や現在と回想の場面に着目し，線を引いているか。 【思考・判断・表現】 ①ワークシート - 文章全体を踏まえて，展開の仕方を捉えているか確認する。
	○ 単元の概要をつかみ，登場人物の関係を捉える。	5 ICEループリックシートで，単元の学習課題，学習計画の見通しをもつ。 【単元の学習課題】 書評を通して，作品の魅力を伝え合おう。	1	本単元の学習内容を確認させるとともに，自分自身の解決したい課題を設定させることで，主体的に学習に取り組めるようにする。	【主体的に学習に取り組む態度】（予見） ワークシート 気付いたことを記述している。

	○ 言動に着目し、人物像をつかむ。	6 「ルロイ修道士」の人物像を三角ロジックに書く。		・ 「三角ロジック」を用いてまとめさせることで、根拠を明確に述べられるようにする。	
展 開	○ 展開の仕方の効果を捉える。	7 現在と回想の部分を表にまとめ、時間の順序を整理する。	1	・ 回想の場面があることでルロイ修道士の印象が変わってくることに気付かせ、回想の場面の効果を確認しやすくする。 ・ 考えたことを言語化させ、他者と共有できるようにする。	【思考・判断・表現】 ②ワークシート ・ 場面ごとの登場人物の言動に着目し、自分の知識や経験と比較しながらまとめているか確認する。
	○ 展開の仕方や表現技法の特徴とその効果について考える。	8 物語の展開に関わる印象的な部分をワークシートにまとめる。 9 書評としてまとめるために必要なことを話し合う。	1	・ 手や指のしぐさが登場人物の信頼関係を表していることに気付かせられるようにする。 ・ 作品中に三回出てくる「握手」の違いをまとめさせることで、展開の仕方の工夫や効果を記述できるようにする。 ・ これまでのワークシートに気付いたことを加える場合は、青ペンを使用させることで、主体的に学習に取り組んでいることを実感させる。	【主体的に学習に取り組む態度】 (遂行) <u>ICEルブリック</u> ・ 予見の段階と比較し、考えの変容や深化を記述している。
終 末	○ 観点をもとに書評としてまとめ、相互評価し、考えを深めることができる。	10 これまでの学習を生かしながら「握手」の書評を書く。 11 観点に従ってまとめることができているか相互評価し、感想を交流する。 12 ICEルブリックシートに単元の振り返りを記入する。	1 本時	・ 前回までにまとめたワークシートを確認しながらまとめさせる。 ・ 観点を基に、互いの書評を比較させ、具体的なアドバイスや感想を記入させる。 ・ 本単元で学んだことや自分自身の課題を振り返れるようにする。	【思考・判断・表現】 ①②ワークシート ・ 展開の仕方を捉えたり批判的に読んだりすることができているか確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】 (省察) <u>ICEルブリック</u> ・ これまでの学習を振り返り、考えの変容や深化を記述している。

7 本時の実際（5／5）

(1) 目 標

- 展開の仕方に着目し、書評として自分の考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 授業設計の工夫

前単元「走れメロス」の終末段階である6時間目に、「根拠を明確にして作者の伝えたいことをまとめる」ことを目標に授業を行った。特に、「作者の伝えたいこと」をまとめるために、事前を書く観点を示し、前時に思考ツールとして「三角ロジック」を用いて、考えを整理する時間を設けることで、論理的に説明できるように努めた。

その授業の展開では、作品における「作者の伝えたいこと」は何か、200字でまとめさせ、下記の基準のもと、評価を行った。

A	◎ すべての観点がすべて記述できている。 【①言動から分かること、理由付け、③伝えたいこと（196字）】 ①「疑うのは正当な心構えだ」とつぶやく王は、人を疑うことは仕方がないと考えていた。しかし、最後には「真実とは決して空虚な妄想ではなかった」と考えを改める。改心した王はこの後、もう人を殺すことはないだろう。②なぜなら、メロスが約束を守っただけでなく、裏切ろうとしたことを友に告白し、信実を証明したからだ。③そこで、この作品は、信頼、信実によって結ばれた絆は、周りの人を変える力をがあると伝えていると私は考える。
B	○ 次の観点が記述できている。(②理由付けの記述がない) 【①言動から分かること、③伝えたいこと（187字）】 ①「疑うのは正当な心構えだ」とつぶやく王は、人を疑うことは仕方がないと考えていた。しかし、最後には「真実とは決して空虚な妄想ではなかった」と考えを改める。さらに、王がメロスに初めて会ったときは蒼白だった顔も、最後の場面では顔を赤らめている。明らかに王が変わったことが分かる。③そこで、この作品は、信頼、信実によって結ばれた絆は、周りの人を変える力があると伝えていると私は考える。
C	B未満

その結果、20%以上の生徒が「A」、70%の生徒が「B」、10%の生徒が「C」であった。これを基準に照らしたとき、「ケース2」となる。

ケース2	多くの生徒がB基準以上であるが、AよりBが多い場合	授業のねらいを多くの生徒が概ね達成している状態と判断する。授業では、生徒のA基準とB基準の記述を比較することで、生徒自らが違いに気付くようにする。
------	---------------------------	---

これに照らし、本授業でも前授業と同様、自分の考えをまとめる場面では、事前に観点を示し、より明確な作品の魅力を書評として記述させた後、相互評価を行わせ、具体的な感想やアドバイスをし合えるようにする。

(3) 展開

過程	主な学習活動（・予想される生徒の姿）	時間・形態	・ 指導上の留意点 ◎ 評価
導入	1 単元の学習課題を確認する。 作品の魅力を書評で伝え合おう。	2分 一斉	・ 単元の学習課題を確認することで、ゴールへの見通しをもてるようにする。
	2 前時の学習内容を想起し、本時の学習課題を確認する。 作品の展開の仕方を工夫することでどのような効果があるだろうか。	3分 一斉	・ I C E ループリックを活用し、前時の学習内容を振り返ることで、本時の学習の目的を主体的に捉えられるようにする。 ・ これまでの学習内容を振り返ったり、本時で身に付けるべき力を確認したりするために、I C E ループリックシートを活用する。
展開	3 今回の書評を書く観点を確認し、これまでの記述を振り返る。 ・ 今回の単元では、「展開の仕方」に着目して学習を進めてきたな。	3分 一斉	・ 相手意識・目的意識をもたせるために、生徒と共有してきた観点を本時でも再度確認できるようにする。
	4 観点を意識しながら書評を書く。 ・ 「握手」は、別れを伝える話だ。 ・ ルロイ修道士のしぐさを「わたし」がしているのは、言葉にならない思いを表している。	12分 個	・ これまでに自身が考えたワークシートから自分の考えの変容を確認することで、思考の流れを把握できるようにする。 ・ 比較して気付いたことやもらったアドバイスを基に書けるようにする。 授業改善の工夫 - モデル文を基に空欄を埋めて作成できる型を示す - 参考として、他者の書評を示す - 自分の記述を振り返り、加筆修正を促すために、相互評価の場を設ける
	5 それぞれの書評を交流し、作品の読みを深める。 ・ 全体像は、ルロイ修道士のことだけでなく、物語全体のことを書いたらいいと思う。 ・ 手や指のしぐさが過去を思い出すきっかけになるというのが実体験も書かれていたので納得しやすい。 ・ 回想の場面がなければ印象がどのように違うかについて書くと、より伝わりやすくなると思う。	10分 グループ	・ 書評を交流する際、観点を意識して書いているか確認できるようにする。 ・ 具体的にアドバイスを行わせたり、気付いたことを積極的にメモさせたりすることで、振り返りがしやすいようにする。 ◎ 展開の仕方に着目し、書評として自分の考えをまとめようとしている。 【思考・判断・表現】 （ワークシート）

終 末	6 本時のまとめをする。	8分 一斉	・ 数名に書評を発表させることで、どのような違いがあるかに気付くようにする。
	まとめ (例) ○ 回想の場面を用いることで、「現在」と「過去」の共通点と相違点が分かり、読者が作品に引き込まれたり、ルロイ修道士が病気であることが伝わったりする効果がある。 ○ 場面展開の仕方を工夫することで、読者に最後の場面を印象付けている。		
	7 I C E ルーブリックで単元のまとめ、振り返りを行う。	10分 個	・ どんなことを意識しながら小説を読み進めたかを振り返ることで、今後の学習意欲や読書活動につなげられるようにする。
	・ 展開の仕方に着目すると、登場人物の関係の変化や深まりに気付くことができる。 ・ アドバイスを受けて、もう少し具体的に表現する必要があると感じた。 ・ これからも多方面からの意見を聞き、新しい視点をもてるようにしたい。		

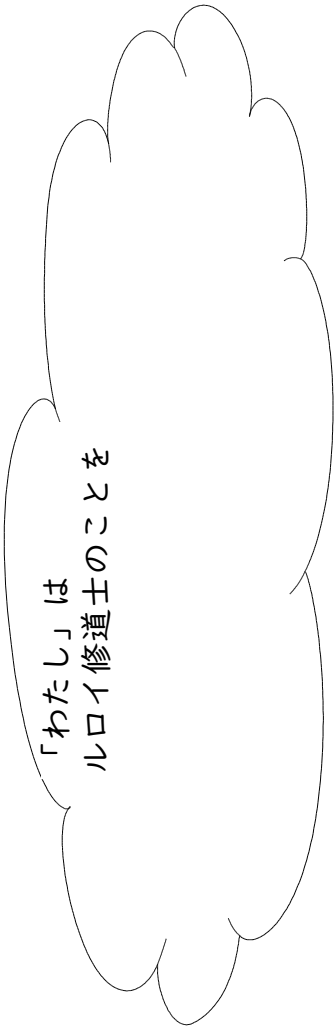
(4) 本時の評価基準

A	◎ 次の観点がすべて記述できている。 【①全体像，②展開の工夫，③展開の効果と批判的な読み，④既存の知識・体験との関連】 ①「握手」は，ルロイ修道士が生徒に惜しみなく愛情を注ぐ物語だ。 ②展開の工夫として，題名にもなっている握手が，作品中で三回描かれていることが挙げられる。再会の場面での穏やかな握手，それをきっかけに思い出した出会いの場面での歓迎の握手，別れの場面での感謝を伝える握手というように，握手や手のしぐさから回想し，ルロイ修道士の気持ちが分かりやすくなっている。 ③回想場面を取り入れる効果としては，再会したときに「大きく差し出された手」から「天使の十戒」や天使園に収容されたときの握手を回想する場面を用いることで，現在の「穏やかな握手」を昔と比較することができ，ルロイ修道士の厳しさや優しさ，病気ではないかという疑念を「わたし」だけでなく，読者にももたせていることが考えられる。もし，回想の場面がなければ，ふたりの信頼関係が読者に伝わりづらくなると考える。 ④わたしは甲突川に行くと，小学校のとき，スポーツ少年団のみんなで県大会優勝に向けて走った日々を思い出す。みんなにとっては何気ない甲突川が，わたしにとっては，辛いことがあってもお互い励まし合える友だちがいることを思い出させ，またがんばろうという気持ちにさせてくれる場所である。 (509文字)
B	○ 次の観点が記述できている。(③展開の効果と批判的な読みの記述がない) 【①全体像，②展開の工夫，④既存の知識・体験との関連】
C	B未満

学習課題

＜事実＞ 「わたし」の言動→ルロイ修道士/回想

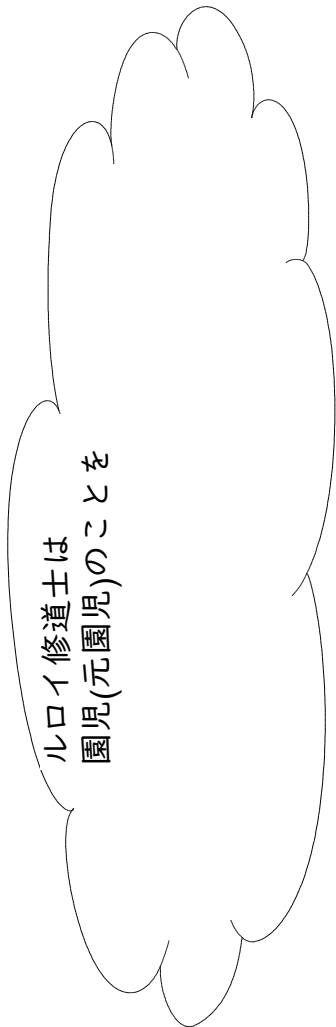
理由付け



ルロイ修道士の人物像

＜事実＞ ルロイ修道士の言動/現在

理由付け



組 番 氏 名			
学 習 課 題			
現 在	し ぐ ぎ	過 去 （ 回 想 ）	備 考

作品の魅力を書評で伝え合おう。

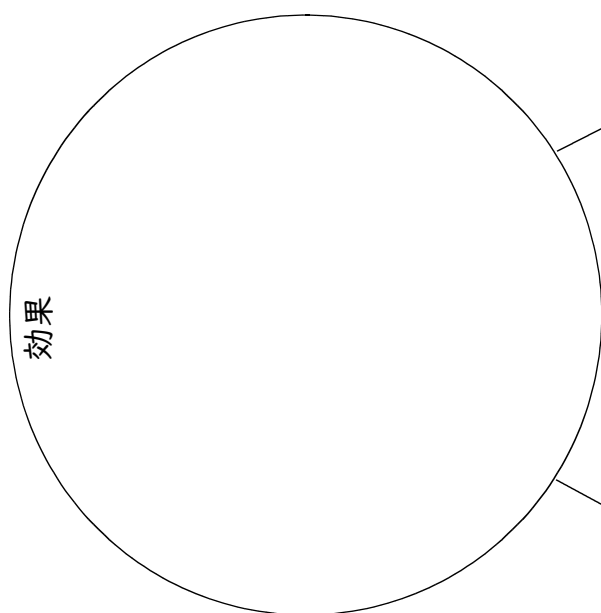
組 番 氏名

学習課題

☆ 作品の特徴は

☆ 根拠となる部分（印象的な言動）・描写／意味

三角ロジックを使って考えたことを整理しよう。



事実（描写）

理由付け

学習課題

全体像																			

展開の仕方の工夫																			

展開の仕方の効果																			

既有的知識・ 体験との関連																			

I・C・E・L・U・P・R・I・C・K・S・H・E・E・T

単元名 作品の魅力を書評で伝え合おう

握手

三年 組 () 番 氏名 ()

単元の学習課題…作品の魅力を書評で伝え合おう。

Extensions (応用する)	Connections (知識や経験を表現につなげる)			Ideas (基礎知識を得る)	段階	学びの段階
	☐ 展開の仕方の工夫や効果について考えることができる。 ☐ 登場人物の言動に着目して作品を読み、心情を捉えることができる。 ☐ 単元の概要をつかみ、作品の設定と人物像を捉えることができる。			☐ 作品を通読し、概要を捉えることができる。	☒ 身に付けるべき力	
5	4	3	2	1	時間	単元計画
観点に従って自分の考えをまとめ、相互評価し、自分の書評を振り返る。	展開の仕方の特徴や工夫していることについて描写を基にまとめる。	ルロイ修道士のしぐさに着目し、過去と現在を比較し、回想の場面の効果をまとめる。	ルロイ修道士の人物像をまとめる。	作品の展開の仕方に注意しながら読み、印象と疑問を記述する。	学習内容	
【本単元で課題を解決するために試行錯誤したこと】	【これまでに学習したこと・本時の学習に役立ったこと・今後の「私の」課題】			【学習における目標・疑問に思ったこと・授業で追究したいこと】	できるようになったこと・理由	振り返り
					できなかったこと・理由	
					次回の「私の」課題	